

第68回国民体育大会

我らかく戦う

期日 平成25年9月28日(土)～10月8日(火)
会場 東京都調布市ほか

公益財団法人 北海道体育協会

我 ら か く 戦 う

競技名	種別	評価	予想順位・得点	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
陸上競技	全種別	4	個人5位、得点90点	福島選手や女子リレーの優勝を含み走・跳・投それぞれに各選手が活躍し、着実に得点を重ね、天皇杯入賞を目指す。	福島千里(100m400m女子リレー) 高平慎士(男子リレー) 小池祐貴(100m男子リレー) チャールズ・ドゥング(5000m) 小南拓人(やり投) 金井大旺(110mH)	福島千里:日本選手権優勝、モスクワ世界選手権代表 高平慎士:ロンドンオリンピック代表 小池祐貴:インターハイ2位 チャールズ・ドゥング:インターハイ2位 金井大旺:インターハイ5位 小南拓人:インターハイ優勝
サッカー	成年男子	2		非常に厳しい戦いが予想されるが、試合時間が通常より10分短いことから、守備意識を高く持ち、失点を許さなければ勝機はあると考える。	平加涼、名雪遼平(ノルブリッツ北海道)	第36回全国地域リーグ決勝大会 3位 JFL入替戦(対戦相手:栃木ウーヴァ)でPK戦の末、敗退
	少年男子	3	団体3位	コンサドレ札幌の選手を中心に個としての能力が高い選手が多い。それらの選手がチームの中で機能し、活躍できるようにしながら、チームコンセプトを共有して闘ってきたい。	川尻龍司(コンサドレ札幌U-18)	杉山雄太(コンサドレ札幌U-18)(連続出場) 札幌大谷高校 1回戦 0-7 流通経済大柏高校(千葉)[1回戦敗退] 北海道大谷学園高校 1回戦 2-2(PK4-5)私立正智深谷高校(埼玉)[1回戦敗退]
	女子	3	団体8位	過去2年初戦敗退しているので初戦勝利を目指したい。	有田選手(ノルディア北海道)	チーム単独出場のメンバー構成の中、唯一、1名だけ普段は男子サッカー部に所属して活動をしている高橋選手(根室高校)に注目。
テニス	成年男子	3	団体8位	過去に代表選手だった経験を生かし、上位進出を期待する。		
	成年女子	3	団体8位	昨年、少年代表だった選手もあり経験を生かし、上位進出を期待する。		
	少年男子	3	団体8位	初代表の2・3年生だが、数々の全国大会出場経験を生かし上位進出を期待したい。	インターハイベスト128 全日本ジュニアベスト64	
	少年女子	3	団体8位	昨年の代表と初代表の2人だが、幼少期より共に練習をしてきた成果を発揮し上位進出を期待したい。	インターハイベスト64 全日本ジュニアベスト64	
ボート	ダブルスカル	3		本校は少年男子ダブルスカルで4年ぶりの出場です。上位入賞を目標としています。		
	舵手付きクォドルブル	3		本校は2年連続出場です。上位入賞を目指しています。		
ホッケー	少年男子	3	団体4位、得点40点	目標は、ベスト4。抽選次第でもあるが、是非達成したいと考える	FW鈴木祐輔・MF湯浅一真(日本ユース代表候補)	選抜ベスト8、インターハイ1回戦敗退
	少年女子	2	団体5位	北海道は、早い時間帯で失点をしないゲームを展開していけるかが試合のカギといえる。8月のインターハイでは、九州代表の伊万里商業高校と対戦し、敗れはしたが、予想よりは少ない失点で戦えた。東京国体までに各チームの力も上がっている。北海道チームも本州遠征し練習ゲームを重ね良い状態で戦えるように仕上げていく。何とか、勝利を挙げたいと考えている。		全国選抜大会 1-3 東京学芸大学附属高校(東京都) インターハイ 0-3 伊万里商業高校(佐賀県)
ボクシング	成年男子	3	個人8位、得点35.5点	若いメンバーであり、波の乗れば各選手が、期待以上の、活躍が期待できる。	阿部(札幌工定):現役の高校生であるが、本年度、高校総体で第3位入賞。 酒井(東農大学):関東リーグ1部の大学に在学、主力として活躍。	安川(岩見沢消防)は、ボクシングの競技規則の変更により、4年ぶりの本選出場となる。過去には、国体で優勝を2度手中に収めている実力者で、4年間のブランクを感じさせない戦いで予選を勝ち上がった。北海道選手団の精神的支えであり、今一度、本国体での活躍を期待したい。 阿部(札幌工定)は、2年前と本年度二度高校総体3位の結果を残している。 酒井(東農大学)は、高校時代高校総体優勝、国体優勝の結果を残している。
	少年男子	3	個人8位、得点35.5点	本年度の全国高校総体の結果も加味すると、何とか入賞したいと考えている。	ミドル級 柳谷選手(高校総体では、2年連続第3位を受賞) ライトウェルター級 細野選手(本年高校総体では初出場ながら3位入賞である) フライ級 渡辺選手(道内屈指のハードパンチャーであり、くじ運だけで入賞が期待できる)	ミドル級 柳谷選手(高校総体:第3位) ライトウェルター級 細野選手(高校総体:第3位)
バレーボール	成年男子	2	団体5位	大学生が中心のチームということもあり、若さを前面に出して勢いに乗って戦いたい。	出崎大喜:人並みはずれた跳躍力を生かしチームの得点源としての活躍が期待される。	
	成年女子	3				
	少年男子	3	団体8位	組織的なブロックを駆使し、守備力・機動力を活かして、上位進出を狙う。		榎本京祐が3大会連続出場、小池勇輝・関山大介が2大会連続出場となる。
	少年女子	3		札幌大谷高校の選手を中心に、他3校より補強したチームである。ディフェンスからの展開好プレーができれば好成績につながると思う。最低でもベスト16が目標	小室祐里(札幌大谷高3年)豊富なジャブ力を生かした攻撃力。2年連続国体出場。	札幌大谷高校 ベスト16 旭川実業高校 予選ブロック戦敗退
体操	成年男子(競技)	3	団体7位	チーム全員が6種目こなせるオールラウンダーなので確実にベスト3を取る試合運びがしたい。	藤原昇平選手(早稲田大2年)ただ1人87点台をマークできるチームの軸的存在。	
	成年女子(競技)	2	団体8位	チーム一丸となって、全国一ミスのないチームで戦いたい。		
	少年男子(競技)	3	団体24位	失敗のない、減点を極力少なくした演技を試みる。チーム戦としての役割を各自が意識して臨む。		高校総体団体25位(北海道としては久しぶりの20番台中盤)
	少年女子(競技)	3	団体8位	決勝を最終班前で行い、減点やミスの無い演技で8位を狙う。		
	少年女子(新体操)	1	団体20位、得点13点 個人20位、得点12点	高望みな構成をせずに確実に着実に得点をとっていく。個人では、申告点の2/3をとって行けるようにする。団体も同様に、演技を最後まで明確に正確に心を掛けます。		監督が山形べにばな国体5位入賞を経験。
バスケットボール	成年男子	4	団体3位	一戦、一戦をしっかりと戦い、確実に試合をもに出来る様な展開に	込山覚徳(攻守にバランスがよく試合の流れを変えることが出来るプレイヤー) 松本章平(シュート力がありボールをもらうまでの動きが上手いプレイヤー)	
	成年女子	3	団体5位	今年度成年女子は都道府県大会の年にあたり、参加チーム数も多く、組み合わせ抽選次第である程度勝ち上がれる可能性はある。特に今年は関東から学生3人をふる里選手として補強したので、足を使ったスピードのあるゲーム展開が期待している。	野口まゆみ(旧姓:船引)選手は元ナショナルチームで活躍し、現在北海道の成年女子をけん引する立場にある。	成年女子チームの母体となるアカシヤクラブは平成13年3月に大阪で開催された全国クラブバスケットボール選手権大会で3位に入賞。
	少年男子		団体5位	大型センター不在の中、オフェンスは常に連続性に富んだ攻撃を仕掛けていきゲームをコントロールし、ディフェンスは激しさの中に駆け引きを駆使して先手で仕掛けるゲームをしたい。必死に一回戦を突破し弾みをつける。	林翔太郎選手(旭川大学高3年):U-18の北海道代表選手に選出され、ガードもできるオールラウンドの選手である。	
	少年女子	4	団体8位	インターハイでともに2回戦で敗退した山の手高校、東商業高校の選手でメンバーを構成している。ベスト8を目標に東京国体に臨みたい。	佐藤奈々美・斎藤麻美(山の手高校2年)	昨年度は創成高校中心のメンバーだったため、今回は全員国体初出場のメンバーである。
レスリング	成年男子	2		ふるさと選手の活躍に期待したい。		
	少年男子	2		グレコ陣の奮起を期待したい。		
セーリング	全種別	3	個人2位、得点7点	松苗選手が上に行けそうな気がします。毎年継続して得点がとれるよう選手団選手9名で頑張ります。	松苗幸希:千葉国体成年女子 SH-SR級 3位	
ウエイトリフティング	成年男子	2		昨年の記録と比較すると、4選手は入賞ラインまであと一歩のところである。今後のトレーニングだけでは入賞に手が届くところに来そうである。	若松慎也 第67回国民体育大会 少年の部69kg級 スナッチ2位、ジャーク2位	平成25年度 第60回全国高等学校選手権大会 +105kg級 6位 高山征一
	少年男子	3	個人35位、得点6点	高山選手はインターハイで入賞を果たしている。残りの2選手はインターハイでは入賞を逃したが、それ以後着実に記録を伸ばしており、入賞も期待できる		
ハンドボール	成年男子	2	団体8位、得点15点	一つでもよいパフォーマンスをし、今大会での1勝する。また、今大会で技術等を学び、今後を生かし、来年も出場しさらなる結果を残したい。	成年男子ハンドボール競技、広島選抜 坂本伸博選手 北海道の競技力向上のため、小学生にハンドボールを教えに北海道に何度も足を運び、指導しているため、活躍を期待したい。	
	成年女子	2		年々、走り繋げて行くことが出来る時間帯が多くなっているため、積極的に攻め走り負けにくいことで点差もつめた戦いをしたい。	大室・宮本・佐藤・鈴木・澤田の得点力を全国でどこまで発揮できるか、十亀・渡辺とタイプが違うゴールキーパーを中心にゴールを守る。	本年、東日本クラブ選手権にて北海道倶楽部が1勝
	少年男子	2		1回戦突破を目標としています。少年男子は参加チームが16なので、全国高校総体の3回戦が国体の初戦だと思います。60分間、最後まで集中して試合に臨みます。	小澤基:186cmの長身選手である。2年生ではあるが、高校総体でも体格と運動能力を生かして活躍したため、今大会でも活躍が期待できる。	
	少年女子	2		インターハイ出場した札幌月寒主体の札幌選抜に北海道大会で勝利し、国体出場を決めた。JOC出場選手が多く、この経験を生かして初戦突破を目指す。	竹林千穂(市立函館):鋭いステップでディフェンスをかわし、力強いシュートを放つ。チームの得点源である。	初戦敗退(札幌月寒17-34京都洛北) 2年連続出場 竹林千穂、七崎琴美、佐々木春海

競技名	種別	評価	予想順位・得点	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
自転車	全寿別	2	個人8位、得点2点	競技場での練習機会は少ないため、他県と比較して競技力(技術・感覚)が低い位置にあるが、路上練習の成果を最大限に発揮し、入賞を果たしたい。	成年の依選手は今季富士大学に入学し、1年生ながら岩手県体育大会において3種目で優勝しており、入賞を期待したい。松田選手は早稲田大学時代に何度も経験している競技場であり、地の利を生かした活躍を期待したい。	
ソフトテニス	成年男子	3	団体8位	強化してきた成果が全国規模の大会で徐々に結果として表れ始めた。また、大学で全国上位を果たした選手が道内に戻ってきた。軸となる選手が力をつけてきており、上位入賞を狙える位置にある。	内海・今野ペア	内海・今野ペアが本年東日本選手権において、一般男子の部で道内選手としては10年ぶりにベスト4入賞を果たした。
	成年女子	4	団体4位	昨年の経験を活かし上位進出を狙う。直前合宿で最後のレベルアップができればベスト4入賞が可能。	永野・榊原ペア(昨年度インターハイ個人ベスト8) 榊原(日韓中ジュニア交流会日本代表)	大分インターハイ団体ベスト8(代表メンバーのうち4名)
	少年男子	3	団体5位	昨年2勝をあげたベテランの池田選手、今年1年生でインカレ個人戦ベスト16に入った龍谷高校出身の濱谷選手を軸に攻撃と守りのバランスが取れたチームである。組み合わせもあるが、十分ベスト8に入る力は持っていると考え。	濱谷杏奈(神戸松陰女子大) 池田早織(恵み野病院)	濱谷杏奈(インカレベスト16)
	少年女子	4	団体7位	後衛の打球力と前衛の勝負力。		高校2年生5人と1年生の若いチーム
卓球	成年男子	3	団体5位	リーグ戦なので、1戦1戦勝負に行ければ、面白い展開になる可能性がある。	後藤卓也(日本大)	後藤が中3から8年連続出場
	成年女子	3	団体5位	今回から5シングルスという事で、前半に勝負するか後半にするかが相手チームによって鍵となります。		
	少年男子	4	団体5位	ベスト8に入りたい。チャンスは十分にある。		
	少年女子	4	団体3位	メダルを狙えるチームです。	佐藤瞳選手(札幌大谷高校1年生)	女子シングルス第2位 佐藤瞳:世界選手権代表の松平(四天王寺高)を破り、堂々の2位
軟式野球	成年男子	3		投手を中心に守り抜き少ないチャンスを生かせば勝ち上がれます。	片山俊平 投手 チーム:六花亭 北海道 1投手	
相撲	成年男子	2		団体予選で3勝し、団体決勝トーナメントを目標にがんばります。	先鋒 金澤良伸 函館水産高校相撲部コーチ。2年連続4度目の国体 中堅 山本大生 現在中央大学2年相撲部	金澤良伸 第2回全日本青年相撲大会 第3位
	少年男子	2	個人36位	相当に厳しい内容となると考えられるが、1戦1戦勝ちにこだわりたい。		
馬術	全種別	4	団体3位、得点6点 個人8位、得点34点	今年も馬場馬術に期待している。	総合競技の楠木貴成と馬場馬術の林伸伍、米本晃子が有望。少年団体も上位を望んでいる。	2012年全日本馬場馬術優勝 林伸伍
フェンシング	成年男子	3		フルーレ3回戦、エペ2回戦		
	成年女子	3		フルーレ2回戦、エペ1回戦		森光加と森彩恵は姉妹。札幌大谷高校出身。
	少年男子	2		2回戦:インターハイの成績を勘案してもエース不在の穴は大きい。		
	少年女子	2		2回戦:団体は3人の紅白戦による団体戦で、国際ルールにはない試合方法なので経験が少なく精神面がかなり左右する。3人が平均して強くないと上位には届かない。		
柔道	成年男子	4	団体3位	本年は先鋒、次鋒と北海道外の有望選手(学生)が加わりこの若い戦力が起爆剤となって上位進出を目指すチャンスではないかと期待しています。先鋒、次鋒といずれか1点先取り、中堅から大将までのベテラン勢のいずれかで1点ないし2点を上げ勝ち進む展開を期待しています。		
	成年女子	3		3名共、成年の部、初出場になるが、失点をなくし、思い切りのある柔道で、1つでも多く勝っていけるような戦い方をしていきたい。		
	少年男子	4	団体3位	先鋒、次鋒は全国トップの力を持っているので、後ろの3人が粘り強く、力以上のものをだせることができれば、団体優勝ができる。予想は3位としたが後ろ3選手がカギを握っているため、そこをクリアすれば必ず優勝できる。	浅利、山本の2人が全日本強化選手として活躍している。	団体少年男子としては初の北海道チームの優勝が期待されている。チームのまとまりで狙える位置にいる。
	少年女子	3		失点をなくし、粘り強く戦い一つでも上位にあがりたい。		西いこい、全国高等学校柔道選手権大会 57kg級ベスト8
ソフトボール	成年男子	2	団体5位	今回はチーム編成を大きく見直した初年度として、ふるさと選手として大学生投手の登録を行った。いかに失点と得点の差を少なくできるかだと思える。また若干ではあるが動ける選手を選出し試合に挑みます。		
	成年女子	2	団体5位	実業団等で活躍したことのある選手も多く、トップレベルでの経験を活かし現役大学生ピッチャーを中心に、最後まで粘り強い試合展開を期待する。	下山桃子(日本体育大学)	
	少年男子	1		メンバーが9名しかいませんが、3年生3名を中心に今までの経験を生かして、一勝を目指します。		1回戦:南陽高等学校(山形県)と戦い、0対8で敗退
	少年女子	4	団体3位、得点44点	上位に進出し優勝をねらうためには、投手を中心とした守備力を鍛える必要がある。実力がある関東・近畿・九州ブロック代表との対戦が上位進出のカギを握る。粘り強く戦い、接戦に持ち込み上位進出をねらいたい。	廣橋あかり(投手)、廣瀬夏季(投手) :とわの森三愛高校	平成23年 インターハイ(秋田) ベスト16 平成25年 インターハイ(福岡) ベスト8 廣橋あかり[投手]、高1からの連続出場
バドミントン	成年男子	5	団体1位	東京都・埼玉県・富山県との試合が山場となるが、どのチームにも勝つ力は十分にある。勝敗のキープポイントは牧野選手の活躍にかかっている。	竹村純	竹村純:2012.2013年ランキングサーキットS優勝 2012年 全日本社会人選手権S優勝 牧野公介:2012年全日本社会人選手権D\スト32 全日本総合選手権D\スト32 渡辺大:2012年全日本社会人選手権D\スト32 全日本総合選手権D\スト32
	成年女子	3	団体5位、得点7.5点	昨年と同じ選手でチーム編成になったので、岐阜大会で経験出来たことを活かしながら、チームワークで昨年出来なかった初戦突破、そしてベスト8を目指し頑張りたい。		
	少年男子	4	団体8位、得点7.5点	ダブルスで勝利することが、チーム勝利への影響が大きいことから、ダブルスで勝てるかがポイントとなる。	塚本光希:まだ高校2年生だがインターハイ シングルスベスト16など、今後に期待できる選手である。	塚本光希:2013インターハイ シングルス ベスト16 吉川・青木:2013インターハイ ダブルス ベスト32 吉川 改:2013インターハイ シングルス ベスト32、選抜大会 シングルス ベスト8
	少年女子	4	団体5位	全国大会で実績を残した松本麻佑の単複でポイントを挙げていく展開になる。松本麻佑以外のシングルスは、全国ではなかなか勝負ができないと予想しているため、何が何でもダブルスでポイントを挙げたい。	松本麻佑(とわの森三愛高等学校)	全国選抜大会ダブルス準優勝・シングルス3位、そしてインターハイでは両種目でベスト8の実績を残している(松本麻佑)。また、上坂・松本ペアはインターハイで強豪校の聖ウルスラ学院高校ペアを破るなど実績を残している。
弓道	成年男子	3	団体8位	若い力を引き出したい		
	成年女子	4	団体4位	昨年少年の部で入賞した猪早茜選手をベテラン2人が脇を固めて戦いたい。	3人がそれぞれ団体入賞経験有り。	
	少年男子	3	団体8位	昨年高校新人戦全国3位入賞の星選手を中心に気心の知れた北見の2人の選手が脇を固めて戦いたい。		
	少年女子	3	団体8位	苫小牧経済高校の2人を中心に、補強としての海星高校の選手とともにチームワークでベスト8位を目標としたい。		
ライフル射撃	全種別	3		毎年安定して入賞者を出し、その人数もここ数年伸ばしてきているので今年さらには昨年以上の入賞者を出したい。	ブロック大会で鈴木は大会新記録を出し、柳は自己新で優勝をした。二人とも安定感もあり、しっかりとしたメンタリーも持っているため非常に期待をしている。	鈴木は交番勤務から機動隊に選ばれ、昨年度団体入賞。柳は歯科医の卵で非常に忙しい中で練習方法を工夫して、しっかりと記録を伸ばしてきている。
剣道	成年男子	5		一戦一戦を大切に優勝目指して頑張る。		栄花直輝・瞳 親子出場
	成年女子	4	団体5位	先鋒は本年度の剣道大会で負けなし(警察大会3位)の実力者であるため勝利が期待できる。そのリードで中堅(初出場)と大将(昨年同様)で勝利を目指す。		
	少年男子	4	団体5位	先鋒・次鋒とも力のある選手を揃えたため、前で流れに乗り、中堅小池(全道高校優勝者)以降につなげ勝利を得る。	次鋒・永田(東海第四) :先に行われた王竜旗大会で東海第四の五回戦進出に10人を抜き活躍した。	インターハイ予選リーグ敗退
	少年女子	4	団体3位	大将戦まで勝負がもつれ込めれば勝つ可能性大。	栄花瞳	栄花直輝・瞳 親子出場
ラグビーフットボール	成年男子	3	団体5位、得点20点	北海道内チームの精鋭を選抜して挑む7人制大会である。ゲームでの規律を守り、チャンスを見つけ勝利を目指す。		15人制では東日本都道府県大会では8ブロック優勝を果たしているが、7人制では未知数である。
	少年男子	3	団体10位	激しくつこいディフェンスでロースコアにもちこみ、一回戦突破を目指す。	鈴木陸、小林駿介、モリキ・リード(札幌山の手高校)	

競技名	種別	評価	予想順位・得点	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
山岳	成年男子	5	団体 ボルダリング1位、得点24点 リード5位、得点12点	両選手ともボルダリングが得意種目なので、ボルダリングで優勝を狙う。	杉本怜:7年連続、国体に出場し、そのすべての回で入賞している。山口国体ではボルダリング優勝。 古坂賢太:北海道の代表選手となるのは初めてであるが、兵庫国体では千葉県代表選手として優勝した経験を持つ。	杉本怜 ボルダリングジャパンカップ2013 第4位 杉本怜 高校1年より連続7年連続出場・連続入賞
	成年女子	5	団体1位、得点24点	2連覇しているチームだが、昨年は他県での強豪選手出場により惜しくも優勝を逃したが、その悔しさをバネに優勝を狙う最強北海道ペアであると思われます。	一安瑛子:国体では驚異の実力を発揮し、2011山口国体では個人成績1位 萩原亜咲:2009年から5年連続ボルダリング日本代表選手	2010千葉国体、2011山口国体ボルダリング競技優勝 一安瑛子:2011山口国体ボルダリング競技個人成績1位・4年連続国体出場 萩原亜咲:2004から少女女子時代を含め、10年連続国体出場し全て入賞うち、優勝3回
	少年男子	3	団体6位、得点9位	選手2名とも国体参加は初めてだが、1名は外岩で高グレードを登り、1名はインドア(ロープ)で高グレードを登る。全く正反対な選手だが、お互いの短所をカバーする事が出来ているので、上位入賞を期待している。	浅利礼一:アウトドアボルダリングで高い身体能力を発揮し、北海道でも上位に入る。 小山彬:他の選手よりも持久力がずば抜けて高く、ボルダリングでも長いリーチを生かした動きが出来るので、選手の中で総合力が一番高い	浅利礼一:国体北海道ブロック予選 ボルダリング1位 小山彬:国体北海道ブロック予選 総合1位
	少年女子	4	団体3位、得点18点	同じチームで昨年リード3位、ボルダリング6位という成績を残せたので、ますそれ以上の成績を残せるようにしたい。少女女子は近年非常にレベルの高いカテゴリーとなっているが、他県に負けないう去年から既に実践的なトレーニングを積ませているので期待できると思う。	小武芽生選手はリード、ボルダリング共に除日本代表でありワールドカップに出場するなど、日本でもトップクラスの選手であり非常に期待できる。佐々木里穂選手も競技歴も長く、JOCジュニアオリンピックカップなど全国レベルのユース大会でも決勝進出するなど力のある選手。	小武芽生:2013 ボルダリングジャパンカップ6位、2013 リードジャパンカップ6位、ボルダリングワールドカップ インスブルック41位 佐々木里穂:JOCジュニアオリンピックカップ ユースA 8位
カヌー	スラローム・ワイルドウォーター	3				
	スプリント	2		昨年、少年男子K・2で入賞したので、今回も決勝まで残る事を期待している。	少年男子K・2金澤駿吾・安西孝典組	K・2、JC・1、JWK・1、JWK・2に参加する生徒がインターハイに出場している。
アーチェリー	全種別	3		絶対的な強さは無いが、それぞれの種別で確実にポイントを取り天皇杯を狙う。少年チームの予選突破が鍵。いかに乗ってパフォーマンスができるかどうか。	少年女子チーム:3名がそれぞれ全国大会を経験し実力も十分ある 成年女子チーム:高校選抜優勝経験者が2名	成年男子 松原 連続出場
空手道	全種別	4	団体5位、得点12.5点	ここ近年、北海道の空手道の技術もレベルアップしてきている。選手も、北海道のベストのメンバーを組むことができた。そのようなことから、天皇賞8位入賞を目指していきたい。		岩本衣美里(成年女子形):東アジア選手権女子形優勝 石塚成美(少女女子形):H25年度インターハイ女子形5位 成田大樹(少年男子組手):H25年度和道流全国大会少年男子組手優勝
銃剣道	成年男子		団体3位	1回戦から辛抱強く勝ち抜く力があるチームとして栄光を望みます。	大将:川崎 喜一(第25回高校生大会個人戦 優勝)	第57回全日本銃剣道優勝大会準優勝
	少年男子	4	団体3位、得点18点	一戦必勝に徹し、上位入賞を目指す。		川崎喜一(大将):3年連続出場、小林凌太(先鋒):2年連続出場
クレー射撃	成年男子	3	団体8位、個人5位	全員体調及び精神面が良好であれば、相当好成績が期待できる。スキート野田畑選手は、日本クレー春季本部公式大会で優勝し、好調を維持しているため期待が出来る。	田畑篤(スキート) 星野明浩(トラップ)	
なぎなた	成年女子	3		演技・試合共に、競り勝ち上位入賞をめざす。		
	少年女子	3		演技・試合共に、競り勝ち上位入賞をめざす。		
ボウリング	成年男子	2	団体7位、得点6点 個人8位、得点1点	昨大会のメンバーが1名変更となり、少年で出場経験はあるが、成年のレベルで戦う結果が順位を左右する。	保木慎吾:国体出場経験も豊富であり、昨大会の力を出すことが出来れば入賞可能。	成年女子の保木絵理、成年男子の保木慎吾が夫婦での出場
	成年女子	5	団体3、5位、得点30点 個人5、7位、得点38点	ナショナルメンバーの松田悠、福園祐理恵の2選手を中心に個人戦、団体戦共後の2選手がうまく引きあげられるような戦いになるよう、チームワークとメンタル面でのサポートを重点においた戦いを心掛けたいと思います。	ナショナルメンバーの間由佳梨選手がプロに転向しましたが、松田悠をはじめとしてほかの3選手も遜色のない選手でのチームであり、個人戦団体戦共、上位入賞を目指して頑張りたいと思います。	寺下選手は少女女子に続いて本年で3年連続、松田選手、保木選手は連続6年、福園選手は4年連続で出場。保木選手は昨年まで石川名で出場していましたが昨11月に成年男子の保木選手と結婚し、今年は夫婦として出場。
	少年男子	3	団体8位	3年目の吉成が若い日野を上手に引っ張っていった欲しい。ムラ気のある吉成をまとめるのが監督の責任。	吉成は3年連続出場。日野は昨年まで4年連続出場の兄の後を引き継いでの出場。	
	少年女子	3	個人8位、得点1点	競技種目は、団体戦(2人チーム戦)と個人戦となっている。昨年は団体戦2位に入賞したが、初出場の選手もいること、は府県の選手のレベルも上がっていることから、まずは、団体戦入賞を目指して戦いたい。	清野えみり(昨年度団体個人戦1位入賞)	清野えみり:第66回国体団体5位、第67回国体団体2位、個人1位 倉田萌:第50回東日本選手権個人4位
ゴルフ	成年男子	4	団体5位	全員オーバーバーとならないように頑張る。練習ラウンドでもアンダーバーでラウンドができたので調子を維持したい。		
	女子	5		今年のメンバーは、初出場2人と2年連続出場が1人。この大会で3人が実力通りの力が出せたら上位入賞は確実。		
	少年男子	4		札幌光星高校ゴルフ部の先輩・後輩の仲であり、チームワークは折り紙つきである。昨年3位実績を上回る事を目標とする。	佐藤 太地:日本アマチュアゴルフランキング1位	全国高等学校ゴルフ選手権:佐藤11位、片岡36位 日本ジュニアゴルフ選手権:佐藤7位、小笠原33位
高校野球		3		選手権大会で果たせなかった1勝を目指します。		兄弟 篠田昂也 篠田聖也
トライアスロン	全種別	3		大島~スイムが得意であり、バイクグループにうまく入れれば、良い順位でランに入れる。 沢田~ランニングが得意でランパートでは、1番のタイムが期待できる。	沢田 愛里~デュアスロンを中心に活躍中、国体のバイクパートでは周回遅れとなる事が少ないため、ランニングを生かすことができ、8位入賞を目指す。	沢田~千葉国体8位 ぎふ国体10位